

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790800058		
法人名	医療法人八重瀬会		
事業所名	グループホームマチナトくる		
所在地	浦添市まき港5-3-3		
自己評価作成日	平成23年9月14日	評価結果市町村受理日	平成24年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JGD=4790800058&SCD=320&PCD=47
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F		
訪問調査日	平成23年10月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員の育成:認知症ケアの勉強会はもとより、福祉の理念について反復指導しています。現在の福祉の現場で欠けていることは、接遇マナーがないこと。ここでは21世紀の時代に順応できるよう従来の介護知識・技術・認知症ケアに加え新たに接遇マナーを取り入れています。これからの高齢化社会は介護保険事業が企業の大半を占めることとなります。利用者のニーズも時代の移り変わりと共に、今までとは違う上質、高度なサービスが求められます。他では味わえない喜び、満足感、生き甲斐を事業所独自の新しい発想で開拓しなくてはならない時代に突入しています。これまでの3大ケア(排泄・入浴・食事)だけでなく日々の生活の中で喜び、幸せを感じて頂ける様に笑顔と真心で一日一日を精一杯支援致します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は行政や地域との連携を密にし、管理者は地域支援に取り組み、各自治会に於いて認知症への理解を得るために積極的に啓蒙活動をしている。また、職員の介護知識や介護技術、認知症ケアだけでなく、接遇マナーについても取り組んでいる。入居者や職員は穏やかで、入居者のペースに合わせた支援で理念に掲げている笑い声や笑顔を表出している。隣接する法人内三事業所との協力や医療面での連携が、入居者や家族の安心に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症の方の不安・寂しさを受容し、利用者の心に耳を傾け常に笑顔と真心で、精一杯のケアに努めています。喜び、幸せを感じることで最高の笑顔を引き出せます。一人一人の生活背景を理解し共に時代を振り返り、個々の趣味特技を引き出すことが、高齢者の生き甲斐に繋がると確信し「今日も最高の笑顔を目標に支援しています。	地域密着型サービスの意義を踏まえ、「笑いをたえない・笑顔を引き出す」ことを目標として、理念は管理者と職員で作っている。職員は毎朝、理念を反覆することを習慣化し、意識づけて日々のケアに繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	普段から港川自治会との交流を持っており年始会、敬老会など子供会や婦人部の余興など自治体で協力してくれます。普段はサークルメンバーが訪れ利用者職員と共にレク活動やユンタク会に参加しています。又事業所側が地域の敬老会やその他の行事に参加し交流を持っています。又近くのスーパーへの買い物に利用者をドライブがてら連れて出かけた後、地域の方々と交流を持っています。定期的に民生員の方の訪問有り交流があります。	管理者、リハビリ担当職員が公民館のミニデイに参加し、介護予防について話したり、ストレッチ・レクリエーションの指導をしている。自治会や婦人会、子供会との交流も多く、地域の方から認知症の相談も受けている。また、地域に呼びかけて週1回、夜間芸能サークルを通所施設で開催している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	芸能サークルを通し、地域の方から相談を受け認知症について説明したり、施設をオープンに、認知症の方とのふれあいの機会を作っています。社協との関わりを持ち、社協のイベントやミニデイサービスに出向きレク講習などを通し、地域での認知症者との関わり方についても伝授しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中では津波による災害時の対応について緊急時の対策などが協議されたり、実際施設を取り巻く地域での避難場所などの情報交換等が行われたり、新たなサービスの取り組みに関心を持たれ、グループホームとしての運営方針と高齢者一人一人のサービス方針を分析したときに利用者に求められているサービスとは？等、施設単位ではなく、個人のニーズに応えられるサービスのあり方も話し合われました。	運営推進会議は行政や地域の方々等が参加して2か月毎に開催し、意見や情報交換を行っている。会議では活動状況や外部評価等の他、食事環境で新たに取組んだ器やお膳の工夫で、入居者の食事が量が増えた事等の報告をしているが、会議に入居者や家族は参加していない。	基準省令で運営推進会議のメンバーに利用者、利用者家族の参加が謳われているので、入居者や家族に会議の趣旨に理解を得て参加に繋げてほしい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から担当者との関係性は良好です。御家族からの要望を受け、新たな試みに関しては、事業所側の意見をまとめ、介護保険課担当に連絡相談を行っています。担当者も事例のない問題に関しては関係者と協議し適切に対応してくれます。利用者の入退所に関しても、相談アドバイスを受けています。又諸行事への参加も積極的です。	市担当者は、運営推進会議や地域ケア会議に参加し、情報交換を行っている。地域で外出が困難な方の理容について市の健康課より相談を受け、管理者は地域との関わりを活かし事業所内での支援(散髪)に繋げている	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の禁止は事業倫理要項にも掲載し、職員間でも共通理解を持っています。以前は玄関の施錠を余儀なくされた期間があったようですが、現在は職員数を増やし室内のリフォームをしたり、活動内容の見直しを図り利用者の気持ちを活動に集中させる工夫をする事で問題なく経過しています。	管理者は拘束をしないケアについて定例会で話し合い、接遇や否定的な言葉等にも留意するよう職員に意識づけている。施錠はせず、リスクについても家族に説明をしているが、実際に必要の際には文書で説明し、同意書等も整備している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については、福祉施設に限らず人権を守る意味で絶対的に必要な事だと理解しています。ここでは感謝の気持ちを忘れず、笑顔・真心・敬愛を標語にして毎朝のミーティングで反復しています。意識が変われば行動が変わります。利用者を大切に思う気持ちが虐待防止に繋がるとは思いますが認知症の方は介護拒否がでますので特定の困難ケースの場合は1対1の介護を避け必ず複数で対応させるよう心がけています。不穏時に暴力行為が出て複数では感情を抑える事が出来るからです。どんな時も冷静に対応を心がけています。		

沖縄県(グループホームマチナトくる)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に付いての研修は行っていますが、現在利用者の家族関係はしっかりされており、必要性はありません。関係機関での後見人制度の必要性があるケースについて事例研修などには参加し今後の為に、活用したいと考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は経済的な負担で不安を訴える方もいましたが、その場合は特養施設への申し込みを勧め、通過施設としての活用法もある事を説明し過去に2名ほど、特養施設へ転出しました。契約や内容の変更に関しては、時間をかけて丁寧に説明し、同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会も多く、その都度、家族の声をきき、直ぐ対応できることは当日から開始しています。(例えば服装や、訓練の希望など)又運営推進会にも随時こえかけし、参加できるよう配慮しています。玄関には意見箱を設置していますが、御家族との信頼関係は厚く、充分満足しているとの声が多く、意見箱は活用されていません。アンケートでの意見も繁栄しています。	入居者からは日常会話の中で聞くように努め、家族には面会時に問いかけ聞きとりをしている。家族の要望で、「行事の企画を増やしてほしい」や「機能訓練希望の入居者の下肢の筋力強化」等に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りですてくる問題点について、その都度現場からの意見をまとめ管理者や専門職で協議し、利用者の気持ちとリスク管理も含め、安全第一を心がけたケアの統一性を図っています。定期的に事業所全体での定例会を持ち現場職員の意見交換を行い業務改善を図っています。	職員の意見は月1回の定例会や、その都度聞いて検討し、生活支援で洗濯を手洗いから洗濯機の利用へ、シーツをレンタルに変更している。また、業務記録の書式を見直して夜勤の職員の帰宅時間を早めている。職員の異動は本人の希望や入居者との馴染みの関係にも配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員の、自己評価を基に普段の勤務態度を評価し上に報告しています。又個人にも役割や期待している内容などを伝えモチベーションを上げる努力をしています。給与のベースアップに関しても他の関連事業との比較データを提示し基本給や手当の見直しについて働きかけています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践研修への派遣、事業所内での事例研修など、日々の業務の中で戸惑う事について適切なアドバイスをしたり、経験豊富な模範的人材の配置によって、新任が実践を通して学ぶ事が出来るような職場環境作りにも力を入れています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の地域密着事業所との関わりを密にし、気軽に連絡相談出来る関係性を構築しています。又職員同士の研修や交流が出来るよう、施設見学も取り入れています。同業者同士でのイベント等の企画も実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談を受けたら迅速にご本人を尋ね、自己紹介から世間話をする中で相手の感情の動きに傾聴しています。ご本人の言葉にならない胸の内は表情から察する事が出来ます。入所相談としてではなく一人の人の出会いを大切に心のコミュニケーションを大切にしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族は、ご本人と同居されている側と、時々援助している立場では親への感情が違います。たいていが親の介護で兄弟の関係性が崩れていきますが、入所先でご本人が笑顔で幸せに生活している状況や職員が親以上の感情で大切に関わっている事がわかると、その安心感で心にゆとりができ、崩れかけていた家族間の信頼関係も取り戻すことができます。私たちは双方の気持ちを受容し、お互いの関係性を修復するための働きかけにも力をいれています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自分の家で生活したい本人の要望と、在宅介護が限界にきている家族の気持ちを考えた時に、利用者が幸せに暮らす手立ては、資源を活用することです。在宅所からデイサービスへ、ショートステイの取り入れ、施設入所いろいろなサービスを提案し家族とじっくり協議しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人と人との繋がりを大切に共に寄り添いながら共有する事を意識づけています。自分の親に置き換えて愛情を持って接することも指導しています。出来るだけ利用者の和の中にとけ込み利用者からも信頼される(可愛がられる)人になるよう努力しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の面会時には、利用者の活動時の意欲、表情、言動の変化など入所した後の生活状況を細かに伝えることで、意外な一面に驚かれたり家族の気づかなかった利用者の気持ちが見えてきたり其れがきっかけで家族との絆が深まることもあります。職員は家族と利用者の心の架け橋としてお互いの良い情報を伝えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	殆どが介助を要するため、可能な限り、家族の協力もお願いし、外出の機会を設けています。地域の行事への参加或いは地域からの訪問もあります。毎年地域の敬老会へ参加される方もいらっしゃいます。	入居者のアセスメントや家族からの情報、日常会話等から把握している。馴染みの方が集まる地域の敬老会や豊年祭に入居者が参加できるよう職員が支援したり、美容室に家族と一緒に出かける入居者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士も馴染みの関係が構築されており、お互いが労り合い、会話する光景は地域の老人会活動とかわりありません。職員も必ず輪の中に入り利用者間でのコミュニケーションがうまくいくよう援助しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者個々の細かいケアの方法や、留意点、本人の趣味特技など本人の住む環境が変わっても之までと同じケアが出来るよう情報を提供しています。困ったときは、いつでも相談に応じることを伝えています。出会ったご縁を大切に退所後も支援を継続しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の訴えに関しては十分に話を聞いてあげています。帰宅念の強い方にも同じ話の繰り返しですが必ず向き合い説明をしています。介護職員の中には業務の忙しさに追われ利用者さんを待たせる事もありますが、他の対応をしながらも相手に聞こえるよう返答する事でいくらか安心に繋がる事を意識づけています。又個々の要望に添えるよう勤務体制と業務見直しを図り出来る限り短時間で外出の機会を増やしています。	入居者のアセスメントや日々の関わりで個別に寄り添う時間をつくり、本人から聞いて把握している。困難な場合は、入居者の表情や動き、家族から情報を得て把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所相談を受けたら、ケアマネ、管理者、看護師の複数でご本人を面接し、御家族からは現在の生活状況又通っていたデイサービスでの様子、他の子供達からの元気な頃の趣味特技、交友関係など細かい情報を収集し、それを基に施設でのサービスに繁栄しています。事前に職員間で情報を共有し入所後の新たな課題を出してもらいその都度検討しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護職の中には経験年数の違い知識技術の違いなど格差があり上手く連携が取れないことがあります。チームとして一人の利用者を継続支援していく為に必要な一日の様子が経過で分かるように記録の書式を改善しました。知りたい情報が見えてくると複数で関わるときの支援経過をチームで共通理解できると思います。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の要望や、家族の要望を確認し、職員間で情報を共有している。また、日々の申し送りやミーティングで話し合い、介護計画に反映させています。介護計画は更新時に見直し、状態変化に応じてその都度見直しています。	入居者や家族、職員の意見を聞いてカンファレンスを行い、モニタリングは3か月毎に実施している。車が好いで外出を希望する入居者は「職員とリネンの運搬でミニドライブ」をサービス計画に加え支援している。介護計画は、更新時や状態の変化に応じ見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録はその日の勤務者全ての観察記録が繁栄されるよう記録の見直しをしました。特に夜間一人で勤務する際の利用者の対応に困った問題はその日の内に検討され改善しています。その後の経過を観察し、本人にとってより良いケアプランに繋がるように努力しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のニーズ、家族の要望を常に聞くように心がけています。24時間の長い時間を有効に活用し出来る限り生き甲斐を感じるサービスを提供しています。退屈、窮屈の時間を出来るだけ持たせないように、個別、グループ、集団でのレク活動も幅広く取り入れ、笑い満足度アップに繋がる支援をしています。		

沖縄県(グループホームマチナトくる)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域民生員や自治会のボランティアの方との交流はあります。行きつけのスーパーに可能な限り連れ出しています。地域の中学校の職場体験を受け入れ利用者と交流しています。自治会の行事へ参加させたり、事業所の行事に地域の子供会・婦人会・中高生と交流しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御家族の都合でたいていの方が事業所の協力病院に繋いで欲しいとの要望があります。家族としても受診の付き添いが困難なケースが多く訪問診療を希望される方が多いのですが、精神面の不安定な方には、やはり専門医を勧め通院していただいています。又状態変化があれば迅速に状況説明し適切に対応しています。	法人の病院を家族の殆どがかかりつけ医に希望し、入居者は月2回の訪問診療を受けている。入居者の健康状態はその都度看護師が家族へ説明している。専門医の診療を要する入居者で家族対応が難しい場合は、職員が付き添い情報提供等の受診支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	これまでの訪問看護から8月より正看を常勤で配置し、利用者観察のポイントや対応の仕方を指導し、連携がとれるよう介護職との関係性を構築しています。利用者の健康管理や必要時病院受診対応をしています。疾患や、内服薬の効果、副作用の薬についての勉強会も、取り入れる予定です。受診の対応をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院前に利用者の留意点を病棟看護師に情報提供したり時々見舞いに行き状況を確認するなど病院との連携を取っています。又入院中対応で困ったときの相談も受けながらお互いに情報交換しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	最高齢者が100歳を超えているため、状態変化にいち早く気づきこまめに家族への連絡相談をしています。家族も又いつ何時の覚悟はしていただき、まめに面会に来ていただくようお願いしています。終末ケアについては夜間は一人勤務ですから対応が困難。又家族が付きそう場所もない為、家族・職員間で話し合い特変があればまずは救急搬送で繋ぐ事をまとめ、緊急時のマニュアルも作成しています。	事業所として看取りについての方針は定めている。重度化については家族の面会時に状態の説明をしたり、急変時の対応については、家族の希望を反映したマニュアルを整備し支援態勢を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や事故の対応など定例会の中で確認し、読み合わせを行い、職員各自へ意識付けを行っています。マニュアルは周知してもらって、事務所休憩所等に掲示し普段からイメージトレーニングが出来るよう指導しています。応急処置に関しても看護師を中心に実践の中で指導しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は火災を想定して年に2回実施しています。夜間帯の協力体制としては、近隣の法人の職員の協力体制や自治会の協力体制が取られています。津波勧告の事例を挙げて運営推進会でも避難先の確認や災害マニュアルの作成などを要望しています。又台風時の夜間の停電に備え、ランプで足下が照らせるような工夫をしたり、その際に利用者の不安、転倒のリスクを想定し、従来の一人勤務を2名体制にしたり、利用者の安全面を強化しています。	避難訓練は年2回法人内三事業所合同で計画し、4月の自主訓練の他、10月には消防署協力で夜間想定訓練を予定している。昼夜の緊急連絡網は見やすい個所に掲げ、点検表で安全確認をしている。地域との協力を図っているが近隣住民の参加は厳しく、自治会長の協力のみで留まっている。また、災害マニュアルの見直しも検討中である。	災害時に入居者が安全、迅速な避難ができるよう、自治会と連携し近隣住民との協力体制について理解が得られるよう取り組んでほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常日頃から、笑顔・真心・敬愛を標語に掲げ、毎朝申し送り時に、職員間で感謝の気持ちを忘れず、一人一人に丁寧な対応な言葉遣い、丁寧な対応を心がけるよう指導しています。	入居者に対して、地位もプライドもある大先輩であるということを常に意識し敬意を持って接するように全職員が心掛けている。また、新人職員に対しては、管理者が接遇に関する研修を実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食に関しては、介護側から見た利用者の摂取状況や調理師が直接利用者の嗜好について話を聞くなど利用者の好みを聞き出すことができます。着るものに関しても大半がご自分の好みで服を選ばれます。介護のしづらい服であっても利用者本位を優先しています。リハビリも個別でできる作業療法などテーブルに幾通りか並べておくと利用者さん本人が自分のやりたい材料や道具を選んで自主的に訓練しています。全体レクもテーマが多いので何をしたいか利用者さんと相談しています。発語の少ない利用者には、細かい観察をしながら、一対一で話しかけ、思いを引き出すよう努力しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活パターンを把握し、個人の生活空間を大切にしています。利用者が介護拒否のある場合も決して無理強いせず、利用者の気持ちを優先し、相手のペースに合わせることを心がけています。基本的な日課スケジュールはありますが利用者さんとの会話の中で散歩、ドライブの意見が上がると、可能な限り実践しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	もともとパーマが好きだった方がはご家族の協力もあり、継続的にいきつけの美容室で整容していただいています。日ごろの生活では、入浴後は鏡を見てクリームを塗っていただいたり、ブラシを持たせて整髪していただけます。時折顔のけぞりをして顔回りを整えると大変喜ばれます。行事や外出時は気分を高揚する意味でオシャレ着を準備し本人に選択していただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けのできる身体能力はありません。平均年齢91.7歳で車椅子がほとんどですし、建物の構造上、家庭的な台所ではなく、厨房設備が通しされており、利用者が出入り困難です。そのため、具材の下ごしらえ(もやしのひげとり)などをブレイルームでやっていただいています。又調理師が食事中に利用者や交流しながら、食事の内容や、炊き方などこまめに聞きながら、次の食に反映させたり、お膳を変えたり、器を変えたり臨機応変に対応し、食の充実を図っています。入所前食の細かった方がここでは完食していると家族も喜ばれ、利用者全員が食に満足だと答えてくれます。	入居者全員が食卓を囲み、調理師が一人ひとりに声をかけ笑いを誘う等和やかな雰囲気である。介助が必要な入居者へもメニューを説明しながらペースに合わせ、自力で食事が摂れるよう手を添えながら介助している。入居者は食材の下ごしらえに参加し、できあがった料理を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの疾患、食事量を把握し個々に適した内容を提供しています。水分を嫌がる方には黒糖を混ぜたり、スポーツドリンクを追加したり、太り気味の方にはゼロカロリー飲料を使ったり必要な栄養、水分量を摂取させるよう心がけています。 現在は9名中8名が自力で召上がりですが、振戦がありスプーンの落ち運びがうまくいかない方には軽い介護用の器を使用したりその人の弊害に合わせて座位を高くするため厚めのクッションを使用したりスプーンを介護用に変えたりいろいろ工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは一人一人のペースと機能に合わせ確実に実施しています。歯ブラシの際、義歯の状態、口腔内の状態変化についても観察しています。義歯の方はポリドントで消毒も行っています。 残存機能を生かしてできるだけ時間をかけてご自分で歯ブラシをしていただいています。時間のかかる方は腰掛を用意するなどの配慮もしています。		

沖縄県(グループホームマチナトくる)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ここでは、日中は全員がトイレでの排泄を行っています。尿意のある方に関しては面パンツを使用し、訴えない方でも、排泄パターンを把握し、時間誘導することで失禁を減らしています。排泄時は清潔保持、感染防止などを考慮し陰部、臀部洗浄を義務付けています。又夜間もコールやセンサーや、声かけし、ポータブル介助、トイレまでの誘導と可能な限り、ご本人の意思を尊重しながら自立支援に向けた介助を行っています。	入居者一人ひとりの排泄パターンをチェック表で把握して誘導し、日中は殆どの入居者がトイレで排泄している。誘導を拒む入居者には失敗を防ぐ為、好みの場所に誘うついでにトイレに導く等で事前対応に努めている。また、排泄後の清潔保持や感染予防の為洗浄等も支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の食事内容の見直し、食事量、水分量の把握をしながら食後の排泄習慣は定着しています。が高齢なため運動量が限られ、食事、水分は取れているが便秘は避けられません。半数の方が軽い下剤を入所前から服用しており習慣化しています。洗腸に至るケースは少なく、飲食、適度な運動、腹部マッサージなどで経過良好です。便秘の訴えがあればまずは水分、校門部位のマッサージなど工夫しながら自然排便を心がけています。利用者にも便秘予防のために普段から水分摂取や運動を促し、職員間でも共通の支援をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は午前中に設定していますが、1日3名程度で、ご本人の時間に合わせています。入浴日であっても声かけし本人の意思確認し実施しています。体調不良や本人の要望を聞き入れ日程の変更ができるよう柔軟に対応しています。又同姓介護を希望される方についても職員の役割分担を臨機応変に変更し利用者の要望にこたえています。	入浴は夏場は週に3回、冬場は週2回に設定、午前中に4人の入居者を対象にしているが、希望によって柔軟に対応している。入居者の体調不良や気分によって入浴できない場合は清拭や足浴で代替したり、入浴剤で香りを楽しむ等の工夫もしている。冬場は脱衣場をヒーターで温め室温の配慮をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	家族からの意見を参考にしながら、入所してからの生活パターンを把握し、できる限りご本人の自由な生活スタイルを支援していますが、食事や、活動の区切りがつくと自ら部屋へ戻る方もいます。ただ午睡時間は1時間あまりを目途に声かけし、できるだけ夜間に睡眠が取れるよう支援しています。日中体調不良や前夜に睡眠がとれていない場合は、休養していただくことで活気を取り戻すことができます。昼間はできる限り楽しい時間を提供できるよう、レクリエーションを見直し、一人一人の趣味特技を取り入れ心身ともにリフレッシュさせることで夜間の安眠につなげています。部屋の明るさ、温度、喚起にも十分配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関する情報は、そのつど職員に説明し服薬時や服薬後の状態観察についても共通理解し継続支援しています。少しでも気付きがあればNSへ連絡するなどの連携をとっています。誤薬に関しても周知徹底し二人で確認し責任の元で服薬を義務付けています。NSも現場のスタッフの誤薬防止のため薬の管理に細心の注意を払い、職員への指導も行き意識付けしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の趣味特技を把握し、一日の長い時間を有効活用しています。音楽の好きな方には音楽レク、踊りの好きな方には民舞レクを取り入れ、歌三線の好きな方には生の三線で歌っていただいたり、ドライブ、散歩、花壇の水巻、洗濯物干し、洗濯物整頓など、破れた衣類の補修など、それぞれが特技としているものを日々の生活の中で支援しています。利用者がこの施設での生活の満足され、家族に帰りたいと話している声を聞く職員もやりがいがあります。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り個別での外出も心がけています。家族の訪問も多く、家族と外出する方もいます。又隣に地域密着のデイがあるので、散歩がてら交流したり気分転換を図っています。カラオケの好きな方をグループで新都心のカラオケハウスへ連れ出し、生かきい作りを支援しています。又以前から参加されていた地域の敬老会出席など継続支援しています。今年度は沖縄の年間行事も取り入れ、初詣、浜下り、芸術・美術館見学、デパートやコーヒータイムを外で計画しています。	職員はカラオケの好きな入居者同士を月に1回程度カラオケハウスに外出支援し気分転換を図ったり、隣のデイサービス利用者や余暇活動やコーヒータイムと一緒に楽しめるよう配慮している。また、入居者は家族と馴染みの美容室に通ったり、近くのスーパーでの買い物、事業所周辺を外気浴をしながら散歩する等、外出の機会を増やしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はご家族との同意の下、施設で管理し、要求がある場合に対応しています。これまでは財布をもたせることで紛失が多く、不穩につながるケースが多かった為、本人同意の元、金庫で管理しています。外出時に自分で、支払いができるような支援をしたいと考えています。 ほとんどの方が入所前から、在宅でも金銭管理はしておらず、お金にたいする執着がほとんどありません。今後ニーズのある方が入所する時は、適切な対応はできると思います。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて利用者の気持ちを汲み、対応しています。読み書きのできる方には、年賀状などの支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の構造上、住宅とはかけ離れていますが、できる限り家庭的なフインキ作りを心がけています。装飾、音楽、部屋の明るさ、温度など気持ちよくゆったり落ち着く環境づくりを心がけています。	食堂兼デイルームの2か所にソファを設置し自由に寛げるように配慮している。食堂のテーブル前でレク活動に参加する入居者、居室で昼寝をする入居者、それぞれが自由に過ごせるよう支援している。桜の季節には桜の花を掛け、七夕には笹の葉に願いの短冊をかける等、季節を意識した生活環境に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全体で触れ合う場所と、少人数(2~3人)で語らう場所に分けて、家具を配置しています。 気の合う方がその場所で家事(洗濯物をたたんだり)するのも習慣化しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人一人のプライバシーを大切にしながら、ご家族がいる方に関してはご家族の好きな家具配置をしていただき、自由に使ってもらっています。各部屋は職員で小まめに整理整頓し、常に清潔、居心地よい環境づくりを心がけています。本人のこだわりの寝具や小物なども以前の習慣を継続支援しています。	居室の壁に飾られた家族の写真は、入居者が時には子供や孫に語りかける等の仕草を引出し精神的な安定に繋がっている。入居者の馴染みの枕や寝具等を持ち込み、居室の掃除や片付け、衣類の入れ替え等も入居者と家族、職員が一緒にやり、居心地良く過ごせる環境を工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自力で起き上がり、立位歩行のできる方でも歩行が不安定で転倒が予測できる場合は床を怪我防止用の弾力マットに張り変えたり、見守りができるように、前もって本人の動きを知らせるペットセンサーを取り付け動きの制限をせず、リスクを減らす工夫をしています。		